

平成30年度 全国学力・学習状況調査 南富良野町の結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年

町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ○実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ○様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

(2)教科に関する調査（理科）

主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(3)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語の勉強は好きですか、家で自学自習の勉強に教科書を使いながら勉強していますか、放課後に何をして過ごすことが多いですか、読書時間、勉強時間の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)指導計画・教育課程表の作成について、教員研修、家庭・地域との連携の状況、学校運営の状況や課題を全教職員で共有、学校としての業務改善の取組 など

4 調査の期日 平成30年4月17日（火）

5 調査を実施した学校・児童生徒数（全国悉皆調査）

	実施率	参加児童数	参加生徒数
全国（公立）	99.7%	1,030,031	967,196
全道（公立）	99.7%	39,617	39,683
南富良野町 全校	97.4%	15	22

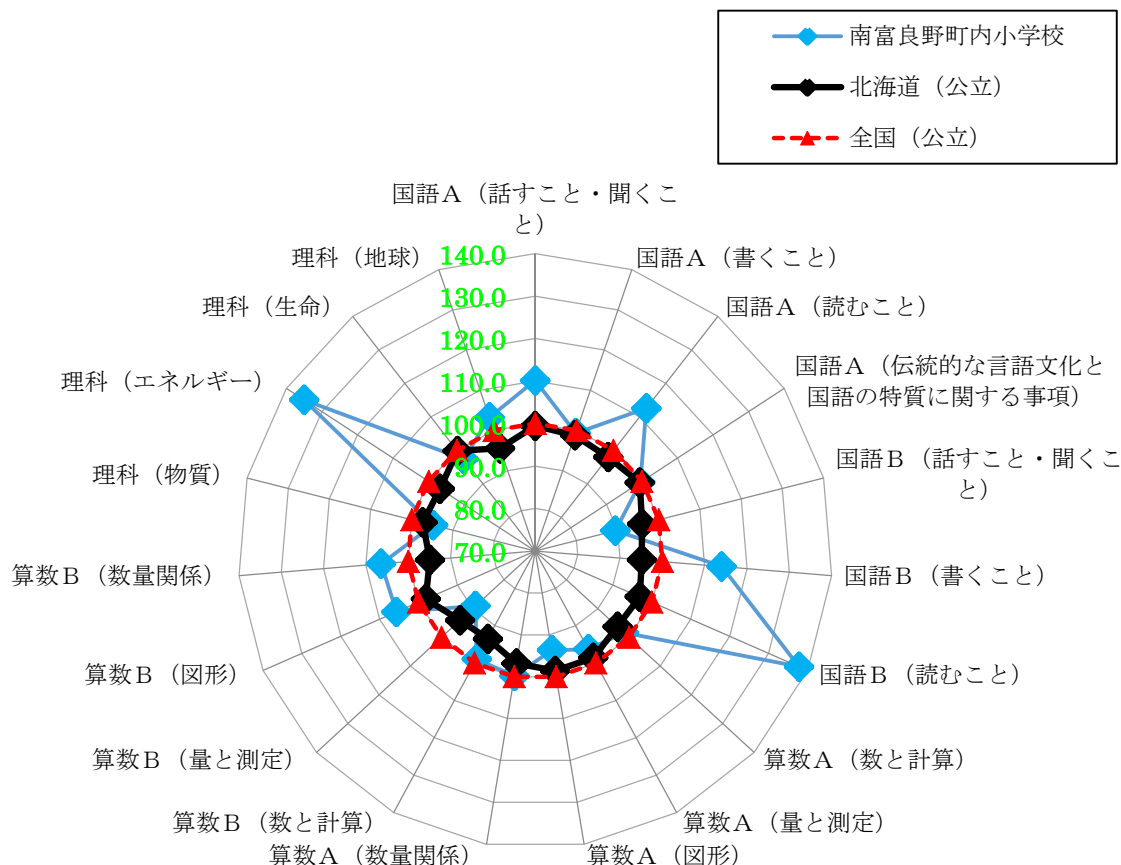
II 調査の結果

※今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部」であり、子どもの学力の全てではないというおさえに立っています。

1 児童生徒の学力の状況について

(1)小学校（平均正答率）

教科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語A(主として知識)	70.1	70.7	72.8	↑ 2.1
国語B(主として活用)	52.7	54.7	58.3	↑ 3.6
算数A(主として知識)	62.2	63.5	63.8	↑ 0.3
算数B(主として活用)	48.7	51.5	53.3	↑ 1.8
理科	58.8	60.3	62.9	↑ 2.6

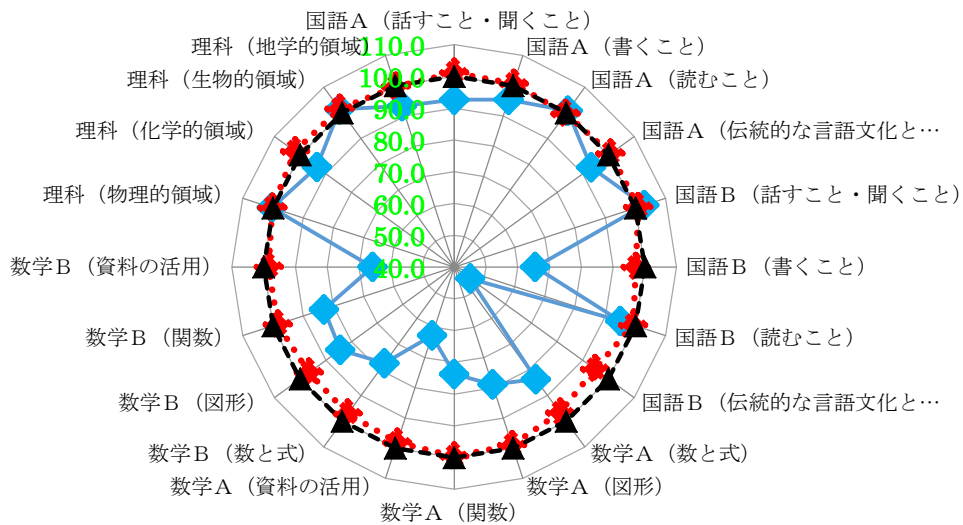
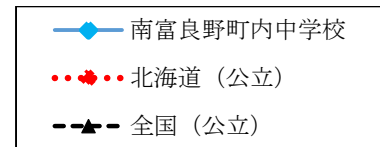


小学校は、全ての教科において全国平均正答率を上回っている。

小学校は、国語、算数共に「知識」よりも「活用」の方が全国平均正答率との差が大きい。

(2)中学校 (平均正答率)

教科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語A(主として知識)	76.6	76.1	71.9	↓ 4.2
国語B(主として活用)	61.2	61.2	60.1	↓ 1.1
数学A(主として知識)	64.9	66.1	51.5	↓ 14.6
数学B(主として活用)	45.8	46.9	36.4	↓ 10.5
理科	66.7	66.1	64.1	↓ 2.0



中学校は、全ての教科において全国平均正答率を下回っている。

中学校は、国語・数学共に「活用」より「知識」の方が全国平均正答率との差が大きい。

2. 児童生徒の平均無回答率の状況について

(1)小学校

教 科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語A(主として知識)	3.3	3.5	1.7	↓ 1.8
国語B(主として活用)	4.0	3.8	0.8	↓ 3.0
算数A(主として知識)	2.5	2.5	0.0	↓ 2.5
算数B(主として活用)	9.2	7.9	1.3	↓ 6.6
理 科	1.1	1.2	0.0	↓ 1.2

(2)中学校

教 科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語A(主として知識)	3.0	3.1	5.2	↑ 2.1
国語B(主として活用)	6.1	3.6	3.0	↓ 0.6
数学A(主として知識)	6.1	3.1	2.8	↓ 0.3
数学B(主として活用)	14.8	12.6	20.1	↑ 7.5
理 科	4.9	5.0	5.9	↑ 0.9

【小学校・中学校共通】

無回答率について、小学校は、全ての教科において全国平均及び全道平均より無回答率が低い結果となっている。

中学校は、国語B、数学Aにおいて全国平均及び全道平均より無回答率が低く、国語A、数学B、理科においては、全国平均及び全道平均よりも高い結果となっている。

3 児童生徒質問用紙の傾向について

※ 共通質問56項目のうち、「生活習慣の基本に関わるもの」「家庭と学校の連携が必要なもの」を抜粋しています。

※ **網掛け**は、全国平均より高い結果を表しています。

※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

(1)家庭での生活・学習について

質 問 事 項	全 国	小学校	全 国	中学校
朝食を毎日食べている	94.5	100.0	91.9	81.8
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	77.0	80.0	74.2	68.2
毎日、同じくらいの時刻に起きている	88.8	93.3	90.3	95.5
家の人に学校の出来事を話す	80.5	66.7	76.0	63.7
家で、計画を立てて勉強している	67.6	66.7	52.1	31.8
家で、学校の授業の予習・復習をしている	62.6	80.0	55.2	36.3

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾でしている時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

	3時間以上	2時間～3時間	1時間～2時間	30分～1時間	30分～	全くしない
全 国	12.5	16.8	36.9	23.8	7.4	2.5
小学校	6.7	6.7	26.7	53.3	6.7	0.0
全 国	10.5	25.9	34.2	16.6	7.9	4.9
中学校	4.5	4.5	18.2	40.9	27.3	4.5

家庭での生活・学習について、小学校・中学校ともに基本的な生活や家庭での学習習慣が身につけている。小学校・中学校ともに学校の授業時間以外の勉強時間が1時間未満の割合が高い。

(2)学校での生活・学習について

質問事項	全国	小学校	全国	中学校
学校のきまりを守っている	89.5	93.4	95.1	86.4
算数・数学の勉強は好き	64.0	46.6	53.9	31.8
算数・数学の授業の内容はよく分かる	83.4	66.7	71.0	40.9
理科の勉強は好き	83.5	93.3	62.9	63.7
理科の授業の内容はよく分かる	89.4	93.3	70.0	86.4

「学校のきまりを守っている。」で、小学校は全国平均よりも高い結果となっている。学習では、「理科の勉強は好き」「理科の授業の内容がよく分かる」の割合が小学校、中学校ともに全国平均より高い結果となっています。

(3)関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	全国	小学校	全国	中学校
自分には、よいところがあると思う	84.0	93.4	78.8	63.7
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	63.8	73.3	59.3	72.8
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	86.2	93.4	86.6	81.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	96.8	100.0	95.5	100.0
人の役に立つ人になりたい	95.2	100.0	94.9	90.9
将来の夢や目標を持っている	85.1	66.7	72.4	77.3

小学校・中学校ともに「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と全員が答えている。

小学校では、全体的に全国平均よりも高い傾向となっているものの、「将来の夢や目標を持っている」については、全国平均よりも低くなっている。

中学校では、「自分には、良いところがあると思う」や「人の役に立つ人になりたい」など、自己有用感が全国平均よりも低い結果となっている。

また、地域や社会で起こっている問題や出来事に全国平均よりも関心がある一方、テレビニュース番組やインターネットのニュースは全国平均よりも関心が低い結果となっている。

(4)読書について

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

	2時間以上	1時間～2時間	30分～1時間	10分～30分	10分以下	全くしない
全国	7.8	11.5	21.8	25.1	14.9	18.7
小学校	6.7	6.7	13.3	26.7	20.0	20.0
全国	6.1	8.7	16.1	22.6	13.5	32.9
中学校	4.5	9.1	22.7	22.7	13.6	27.3

小学校・中学校ともに読書時間が30分以下の割合が6割を超えており、全く読まない割合も高い。全く読まない割合について昨年より小学校では36.3ポイント減り、中学校では8.8ポイント増えている。

III 課題と今後の取組

- 1 小学校・中学校ともに、B活用がA知識より平均正答率が低い傾向がある。
- 2 家庭での学習時間は、小学校・中学校ともに取り組み時間が少ない傾向にある。
- 3 小学校・中学校ともに、基本的な生活習慣や道徳的な考え方、読書などよい傾向が見られている。今後も、家庭学習や読書の習慣づけ、基本的な生活習慣の継続をさせていくため、小中高連携教育を推進していくとともに家庭・地域との連携、啓発の取組が必要である。

IV 家庭へのお願い

- 1 お子さんが望ましい生活習慣や学習習慣を身につけるため、積極的にお子さんとかかわりましょう。
- 2 テレビやビデオ、DVDの視聴やテレビゲーム、インターネット等に費やす時間については、各家庭でお子さんと話し合い、少しずつ減らしていきましょう。
- 3 家庭学習は、学年×10分+10分取り組ませましょう。

学校での授業内容を定着させるには、学年×10分+10分の家庭学習が必要です。勉強する時間を決めて取り組むことのできる環境を親子で一緒につくりましょう。

(中学1年生は80分、中学2年生は90分、中学3年生は100分になります。)